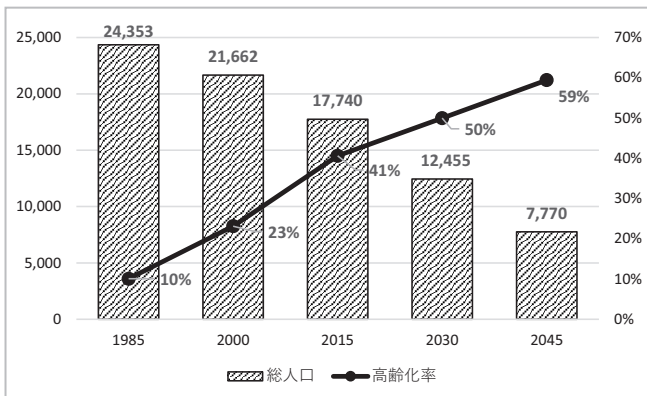


白老町立地適正化計画 機能的でコンパクトなまちづくり

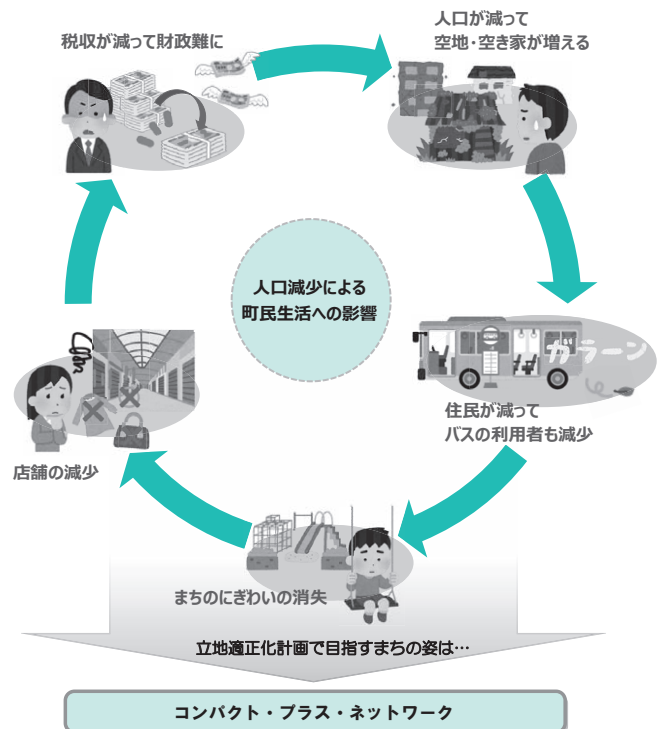
人口減少や高齢化が進む中、日常生活サービスの衰退や公共交通の確保・維持が地域の大きな課題となっています。地域が抱えるこの課題に対応するため、居住や都市機能を集約したコンパクトな都市形成と持続可能な公共交通ネットワークの構築が求められています。そこで、町は白老町立地適正化計画を策定し、機能的でコンパクトなまちづくりを推進していきます。

町の人口と高齢化率の推移



① 2045年の町の人口は
現在の5割に減少、高齢化率は6割に

町の人口は1985年の2万4千人をピークに減少に転じています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今から約25年後、2045年には町の総人口は7,770人に、高齢化率は約59%になるとされています。



② 人口減少が進むとまちがスポンジ化し、
まちなぎわいが失われ、活気が低下する

人口減少が進むと、空き家や空き地が増え、まちが低密度化し、まちなぎわいが失われていきます。そして、まちなぎわいが低下すると、地域経済が低迷し、税収が減り、財政難につながる可能性があります。

こうした人口減少を起因とした負のスパイラルを断ち切るため、各地区の駅を拠点とした「コンパクト・プラス・ネットワーク型」の都市構造を推進していきます。

白老町が目指す将来都市構造

